

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		コンビニ（経営者）	・地元スーパーとの提携でテレビのコマーシャルが増えているのと、地元マッチした商品が今後増える。
		通信会社（店長）	・新モデルの投入やキャンペーンの開始により多少の増加が見込める。
		通信会社（店長）	・新商品も出そろい、旧商品の値引きもあるので市場は活性化する。消費者が価格に厳しくなっているので、価格で訴えられる施策がどれだけ打てるかがかぎである。
	変わらない	観光名所（職員）	・6月までは新型インフルエンザの影響が続くが、7月からは夏本番を迎え県外からの入域観光客数も回復していく。
		百貨店（営業担当）	・今のところ定額給付金のプラス効果が販売の動向にはつきりとは現れていない。さらに収束に向かっているとは考えられるものの、一連の新型インフルエンザ問題による観光業界への影響などがどのように現れるか不透明と言わざるを得ない。
		スーパー（販売企画担当）	・定額給付金に期待はしているが、まだ効果を感じない。
		コンビニ（エリア担当）	・新型インフルエンザの影響で観光客減となるが、無駄遣いせず必要な物だけを買う購買パターンは今後も続き、客単価も増減無く推移する。良くなる要素も悪くなる要素も無い。
		コンビニ（エリア担当）	・新型インフルエンザの影響は収束する。多少単価の落ち込みはあるものの、大きく下振れすることは無いと予測する。
		衣料品専門店（経営者）	・ここ数か月は売上、単価、客単価共に前年比で1割以上下げていたが、今月は少し良い兆しがあるので、もう少し様子を見たい。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・これ以上悪くならないよう出版業界も改編が進んできている。少しずつではあるがその傾向も見受けられるので、急激な変化は無いものの悪くはならない。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・定額給付金の恩恵は感じられない。客はとにかく安い上に質が良く、かつ量の多い料理、良いサービスを求めている。産地直送など、仕入の見直しを迫られている。
	観光型ホテル（商品企画担当）	・5月の稼働率は前年に比較すると約10ポイント下落している。6月は新型インフルエンザの影響で団体のキャンセルなどもあり約13ポイント、7月は約10ポイントの下落で推移する見込みである。	
	ゴルフ場（経営者）	・来年の初めごろまでは低単価での集客が続くと考えられるが、そろそろ安ければ良い、という風潮が続かないような気配が出てきている。また、それに伴ってコースの差別化が起きてくる。	
	やや悪くなる	その他専門店〔楽器〕（経営者）	・7月後半以降は夏の沖縄観光客に期待している。エイサー・観光シーズンは期待できるが6月と夏休み前は全く予想ができない状況である。我慢と、商品開発・組織の改革改善に時間をかける。
旅行代理店（代表取締役）		・新型インフルエンザや高速道路料金引下げなどで県への旅行需要は減少する。	
悪くなる	商店街（代表者）	・現在、日本全国での消費の低迷に並行して、中心商店街のエリアでも消費が落ちている。特に新型インフルエンザの影響もあって観光客が減少しており、街中も危機的状況下にある。定額給付金も、どれだけ底上げができるか様子見しないと分からないが、そもそも所得が落ちているので、消費には結び付きにくいと考えられる。	
	コンビニ（経営者）	・たばこのタスポ効果が一巡して、売上の前年比割れが予想される。	
	観光型ホテル（総支配人）	・宿泊予約状況は前年同月比85%で悪い。新型インフルエンザによるキャンセルが続き、一般団体の動きも悪い。個人旅行は伸びると予測しているが、間際の予約が多い。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（管理部門）	・一部主原料と原油価格が下がっている。
	建設業（経営者）	・引き合い件数が増加している。	
変わらない	窯業土石業（経営者）	・2～3か月前の悪い状態のまま、今後も続く見通しである。	

		輸送業（営業担当）	・夏に向け観光客が増え、飲食含め様々な分野で本土からの物資の輸送は増えることが見込まれるが、就職難や全国的な内需が落ち込んでいるなか、例年割れになることが予測される。
		通信業（営業担当）	・案件が無い状況は変わらない。
		広告代理店（営業担当）	・公的予算の補助により、限られた業種・業態における景気見通しが回復基調となることも想定できるが、幅広い業種を顧客とする広告業界においては、やはり末端の消費活動が活発化するまでは、今後も厳しい状況が予想される。
	やや悪くなる	輸送業（代表者）	・公共工事では、土木も終盤となり、学校関係を中心とした建築工事も5月で終了となる。世界的金融不安に端を発した不況により、民間物件も期待が持てず、6月は在庫積み増し分で大きな変化は無いが、7月以降は不透明である。
		コピーサービス業（営業担当）	・過大な値下げ競争と、時期的な要因による受注減少の影響を受ける。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・現在は雇用に対し慎重になっており、リーディング産業の観光業も少し落ちているが、派遣依頼はある一定数は来ているので、大きくは変動しない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・先行きの不透明感から個人消費の手控え等、不安定要素が多々ある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・IT関連企業を中心にアンケートをとったところ、今年後半からの仕事が減少している企業が多く、現在はまだ良いものの将来的には悲観的な材料が多いとの見方をする企業が多い。
		学校〔大学〕（就職担当）	・県内大手の採用試験が終わった後は、県内企業の採用活動が止まっているようである。求人にも慎重になっている。
悪くなる	民間職業紹介所（人材紹介担当）	・今後、支給が予想される夏季賞与が減額、あるいは支給無しという企業も出てくると予測される。そうなると全体の消費マインドが落ち込み、飲食サービス業は特に厳しくなる。	